

1. 会社概要（基本情報）

会社名	LINE Investment Technologies 株式会社	
所在地	住所	〒100-0011 東京都千代田区内幸町二丁目1番1号 飯野ビルディング9階
	電話	03-6268-8075
	HPアドレス	https://www.lineinvestcorp.com/
代表者	代表取締役社長：宋素妍	
金融商品取引業登録番号	関東財務局長（金商）第3257号	
登録年月日	2021年6月8日	
協会会員番号	012-02951	
業務開始年月	2021年9月15日	
資本金	1億5千万円	
受付窓口	代表	
電話	03-6268-8075	
E-mail アドレス	ml-lit-ir@lycorp.co.jp	

2. 運用の特色（投資哲学、運用スタイル等）

当社は、金融市場は「効率的」ではなく、繰り返しのパターンを示す、というポリシーから、定量的分析によって得られた経験的根拠に基づいて投資決定を行うことを重要視しています。これを実現するために、大量のデータを分析し、今後持続する金融市場の動きをモデル化します。

また、「Diversification is the only free lunch in investing」という投資哲学に基づき、「真の分散投資」は、科学的でシステムのポートフォリオ運用とリスク管理プロセスを通じて実現できるという信念を持っています。このような投資哲学を実現するために、様々な面で分散化・多様化を追求しています。

1. 投資対象の多様化: 日本国内の投資商品に限らず、グローバルな株式、債券、外国為替等を原資産とする100以上の先物商品に投資しています。また、今後は先物以外の現物株式やオプションなどの資産クラスに投資対象を拡大する計画を持っています。

2. 投資戦略の多様化: 特定の投資戦略に頼るのではなく、40以上の投資戦略でポートフォリオを構築しています。相互の相関関係が低い複数の戦略をポートフォリオに組み込むことで、最適なボラティリティに対する利回りを達成できると判断しています。

3. モデリング方法論の多様化: 従来の統計的方法による金融データ分析だけでなく、最新の機械学習技術を活用して非線形のパターンを探し、投資戦略に活用しています。

当社は、Systematic Global Macro戦略の運用会社であり、個々のマネージャーの主観的な判断や投資意思決定の代わりに、金融データの数学・統計分析を通じて100%システムの運用スタイルを追求しています。このようなシステム投資による多様な側面での分散化・多様化を通じて、特定の資産クラスや戦略に依存することなく、どのような金融市場環境下でも安定した収益率を達成することを目指しています。また、リスク面でも数十以上のリスク指標を定量的に分析し、システム的に統制・管理することで、個々のリスクがポートフォリオに大きな影響を与えないように安定した運用を追求しています。

3. 投資に関する意思決定プロセス

投資に関する意思決定プロセスは次のとおりです。

- 1. 調査プロセス** 新規戦略に対するアイデアは、まず過去のデータを通じて検証されます。戦略提案者は自分のアイデアを週次のリサーチ会議で共有し、チーム内で合意を得ます。その後、過去のデータを通じてアイデアの統計的検証を行い、その結果に基づいてCIOが最終決定を下し、調査段階の検証プロセスを通過させます。
- 2. 投資運用委員会** 調査段階の検証プロセスを通過した新規戦略は、CEO、CIO、CRO/CCOがメンバーである投資運用委員会で議論され、最終的にポートフォリオへの組み込みが決定されます。また、新規戦略の組み込み以外のポートフォリオの変更に関する意思決定も投資運用委員会で行われます。
- 3. リスク定例会議** リスク定例会議は週単位で開催され、マクロ経済状況と金融市場に関する意見を共有し、ポートフォリオのパフォーマンスとリスク全体のモニタリング状況について議論します。リスク定例会議の議論は運用チームに伝達され、ポートフォリオの戦略別レビューとリスクモニタリングシステムの改善に反映されるプロセスとなっています。

4. 運用体制

当社の運用チームは合計8名で、CIO 1名、戦略リサーチ担当 3名、リスク管理担当 1名、システム開発担当 3名で構成されています。

CIOは、ポートフォリオ運用の統括責任者であり、戦略とポートフォリオの比重配分に関する最終的な決定を下します。

戦略リサーチ担当は、Head of researchの主導の下で、新規投資戦略とポートフォリオの最適化に関する調査を実施しています。

リスク管理担当は、独自のリスクモニタリングシステムを用いてモニタリングを行い、ポートフォリオのリスク全体の管理を担当しています。

システム開発担当者は、ポートフォリオ運用システム、業績およびリスクモニタリングシステムの開発および保守を担当しています。

5. 運用金額

2024年6月末現在 約7,017万ドル（約113億円）

6. 運用実績

2021年の設定以降、年度別の成果（運用報酬等控除後）は、2021年 +4.3%、2022年 +9.1%、2023年 +11.9%、2024年（5月基準） +17.0%を記録しています（ベース通貨：USD）。

設定後の業績の年間ボラティリティは16.0%で、年間シャープレシオは0.84を達成しています。

当社は、過去4年間で年間ベースで毎年プラスの成果を達成しています。

2022年の米国S&P500指数は-18.1%、ブルームバーググローバル債券指数は-16.2%の大きな損失を記録しましたが、当社は+9.1%の成果を達成しました。

2022年とは対照的に、2023年は米国S&P500指数、ブルームバーググローバル債券指数共にプラス収益を示し、当社も+11.9%の成果を達成しました。

これらの業績の推移をまとめると、当社の業績は、伝統的な資産である株式と債券の方向性とは無関係に着実な収益を達成しています。

7. アピールポイント

当社は、Systematic Global Macro Styleの投資哲学に基づき、資産運用を行っています。

さまざまなデータに基づく統計分析を使用し、世界中に分布する投資対象の中から価格変動の確率が高い資産にロング/ショートポジションを持つことで収益を上げています。これは、多くの国内運用会社が行っているファンダメンタル分析による現物株式投資とは大きく異なるアプローチであり、差別化された先進的な運用方法と考えています。

さらに、ビッグデータ社会およびデジタル社会にふさわしい投資方式と自負しており、将来来るべき社会に適合した資産運用会社として位置づけられるよう全力を尽くしています。

このような定量的技法の運用プログラムは、イギリスの代表的な大手ヘッジファンド運用会社であるWintonで運用経験を積んだCIOが主導して投資システムを構築しており、より先進的な運用技法を国内に紹介する機会ともなっています。